

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	言語文化		学年	単位数
国語	科目名	■必修 □選択	2年	2単位
使用教科書	新編 言語文化		使用教室	
	50 大修館	706	HR教室	
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。</li> <li>・思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。</li> <li>・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。</li> <li>・現代や古典の名文に触れて自らの書く意欲を高める。</li> </ul>			
評価	定期考査、授業中の発言・発表、プリント課題への取り組みによって評価します。			
	a	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙量を増やし、語句の文化的背景について理解を深めるとともに我が国の言語文化と歴史的背景、外国文化について理解している。</li> </ul>	
	b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において文章の内容、構成、展開などを的確に捉える。作品の文書や成立した背景、他の作品などとの関係を踏まえる。</li> <li>・「書くこと」において、自らの体験を踏まえて随想的な文章を綴る。</li> </ul>	
	c	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学作品の内容に興味を持ち、味わうとともに登場人物の心情を理解しようとする。・古文、漢文を積極的に音読してそのリズムを感じる。</li> </ul>	
<p>上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。</p>				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	ことばと出会う	「言葉の森を育てよう」日常使っている言葉を見つめ直す 「季節の言葉と出会う」四季の移ろい、季語に興味を持つ 「漢字と仮名の使い分け」日本語表記の特色を知り興味を持つ	語彙語句の意味を理解する	筆者の考え方を理解する	プリントの取り組みと発表
			表現を味わう	「水かまきり」文学作品の描写や特徴ある表現を味わい、登場人物の人間関係、心情を読み取る 「とんかつ」語り手の役割や場面展開に着目し、作品の構造を理解するとともに、描写から人物像を読み取る	読書の意義効用を理解する	文章の構成表現を理解する	プリントの取り組みと発表
			古文に親しむ	「いろは歌」古文を音読し、響きやリズムを味わう 「兎のそら寝」兎と僧たちの行動、心情を読み取る 「十二の『子』文字」漢字の読みと言語文化理解を深める 「阿蘇の史、盗人にあひてのがること」展開を読み取る	文語の読み特徴を理解する	文章内容を的確に捉える	プリントの取り組みと発表
			漢文に親しむ	「訓読のきまり」漢文の訓読のルールを理解する 「格言」漢語、漢文と我が国の言語文化の関係を理解する 「再読文字」再読文字の書き下し方法を理解する	日本中国の文化を理解する	日本文化に対し深く考える	プリントの取り組みと発表
2 学期	9	8	文化を見つめる物語を受け継ぐ	「足し算の文化」日本文化の特色について理解を深める 「ほどほどのデザイン」日本人独特の感性について知る 「羅生門」小説の構成をとらえて登場人物の心情の変化を読み取るとともに、古典作品との対比により解釈を深める	常用漢字が読み書きできる	文章の構成表現を理解する	プリントの取り組みと発表
			ことばと生きる	「祖母が笑うということ」場面の様子や心情を想像する 「ことばは光」筆者の経験や考え方を的確に読み取る 「コルベ神父」時代背景、歴史的事実を踏まえて読む	文脈中の意味理解を深める	文章の構成表現を理解する	プリントの取り組みと発表

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	11	8	随筆を楽しむ	「徒然草」(高名の木登り、公世の二位のせうとに、奥山に猫またといふもの、神無月のころ)「枕草子」(春はあけぼの、うつくしきもの、にくきもの)文章の特色を理解するとともに作者の考え方を読み取り、自らのうつくしきもの、にくきものについて随想的に表現する。	文語の決まりを理解する	文章内容を的確に捉える	プリントの取り組みと発表
	12	4	現代に生きることば	「守株」「五十歩百歩」「蛇足」「借虎威」それぞれの故事成語の意味について考えを深め、語られている教訓の意義を理解する。	訓読の決まりを理解する	文章内容を的確に捉える	プリントの取り組みと発表
3 学期	1	7	近代文学に触れる 詩歌の調べ	「夢十夜」人物の心情と象徴性を読み取り、解釈を深める 「形」元になった古典作品との比較を踏まえ解釈を深める 「詩歌の調べ」(春のうた・夏のうた・秋のうた・冬のうた) 詩歌の形式や表現の特徴について情景を読み取り、味わう	詩歌の表現方法を理解する	作品内容を理解解釈する	プリントの取り組みと発表
	2	8	物語の広がり	「伊勢物語」(芥川、筒井筒、あづま下り)登場人物の言動を正確に把握し、和歌が果たしている役割を理解する 「平家物語」(木曾の最期)音読して文章の特徴を捉え、登場人物の心情の変化を読み取る	歴史的文体変化を理解する	和歌の奥深さを理解する	プリントの取り組みと発表
	3	5	古人に学ぶ	「論語」(学問のすすめ、社会に生きる)内容を正確に捉え学問と人生についての孔子の考え方を理解する。孔子の考え方と現代との関わりについて自分の考えを深める	孔子の思想生涯を理解する	孔子と自身の考えの比較	プリントの取り組みと発表

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

小説を読むことで、作者の思いとあなた自身の考え方を比較して世界を広げよう。また昔の日本や中国の文化に触れて、人間の本质について深く考えよう。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	地理総合		学年	単位数
地理歴史	科目名	■必修 □選択	2年	2単位
使用教科書	わたしたちの地理総合 世界から日本へ : 基本地図帳		使用教室	
	130 二宮 705	130 二宮 706	HR教室	
学習の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
評価	評価法	・授業態度・発問評価・提出課題・小テスト・定期考査などを基に総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	知識: 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能: 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
		b	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
		c	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	地図とGISの活用	1、地球上の世界 球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解する。 2、国家と領域と領土問題 国家の3要素や国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。	確認 問題	演習 問題	授業 の取 組 み 状 況  振 り 返 り
	5	7		3、国内や国家間の結びつき 観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。 4、日常世界のさまざまな地図 身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。			

(裏に続く)

1 学期	6 7	13	世界文化の多様性と国際理解	1、自然環境と生活文化 世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。 世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。	期末 考查	期末 考查	
	2 学期	9		8	2、産業の発展と生活文化 世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、現代社会における言語・宗教の変容を動的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。	確認 問題	
10		7	3、言語宗教と生活文化 世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。	中間 考查	中間 考查		
11		7	4、グローバル化の進展と生活文化 EU・アメリカ合衆国のた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、EU・アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。				
12		5	1、人口・食糧問題 世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。	期末 考查	期末 考查		
3 学期	1	6	地球学的課題と国際協力	2、居住・都市問題 途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し、その構造的要因を考察する。 3、資源エネルギー問題 エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために、化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し、国際協力の必要性、日本とのつながりについて考察する。	確認 問題	演習 問題	授業 の取 組 み 状 況  振 り 返 り
	2	3		4、地球環境問題 地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。			
		3	生活圏の諸課題	1、自然環境と防災 日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。	学年 末 考 査	学年 末 考 査	
	3	5	2、持続可能な地域づくり 生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかえている課題を見だし、調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し、景観観察やアンケート・聞き取り調査など、さまざまな調査方法を活用する。				

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

地域の多様な文化や国際社会のの社会の課題と向き合う力を身につけることを目指す教科です。日常の社会の動きに興味をもってください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	数学 I		学年	単位数
数学	■必修 □選択		2年	1単位
使用教科書	新 高校の数学 I		使用教室	
	104 数研	716	HR教室	
学習の目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価	評価法	定期考査、提出プリントの内容(毎時)、授業での取り組む姿勢、復習問題・チャレンジ問題、振り返りシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程から考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を示している。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	3	1. 直角三角形 2. 三角比	直角三角形において、三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができる 三角比は、直角三角形の辺の比であることを理解している 直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができる。	復習 問題 提出 プリン ト	チャレ ンジ 問題	授業 の 発表 と 取組 状況
		2	三角比の表を利用して、三角比の値や角を調べることができる。	中間 考査			
	5 月	1	3. 三角比の利用		三角比を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 三角比を利用して、直角三角形の角のおよその大きさを求めることができる。	期末 考査	期末 考査
		6 月	4	4. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。		
	7 月	1	課題学習	傾斜と三角比 道路標識やソーラーパネルの具体例を通して、傾斜と三角比との関連に関心を持ち、考察しようとする。	期末 考査	期末 考査	
		1					

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9月	4	5. 鈍角の三角比	鈍角の三角比の値を求めることができる。	復習問題	チャレンジ問題	授業の発表と取組状況
	10月	3	1. 正弦定理	正弦定理における $A=B=C$ の形の式を適切に処理することができる。	提出プリント		
	11月	3		正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。	中間考査	中間考査	振り返り
	12月	2	2. 余弦定理	余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 測量の問題に余弦定理を活用することができる。	期末考査	期末考査	課題学習での考察
3 学期	1月	3			復習問題	チャレンジ問題	授業の発表と取組状況
	2月	3	3. 三角形の面積	2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。	提出プリント		
	3月	1	課題学習	校舎の高さをはかろう 測量の問題に三角比を活用することができる。	学年末考査	学年末考査	振り返り

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

三角比を新しく学習します。工業設計など他の教科とも関連のある内容です。  
授業に自分から参加する姿勢でしっかりと取り組んで、三角比を活用できるようにしましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	地学基礎		学年	単位数
理科	科目名	■必修 □選択	2年	2単位
使用教科書	地学基礎		使用教室	
	7 実教	702	HR教室	
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
評価	評価法	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。自然環境の保全に寄与する態度が養われている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	6	地球の構造	①測定の歴史や方法をふまえて地球の形と大きさについて理解するとともに、地球内部の層構造とその状態および構成物質について理解している。 ②地球の形と大きさについて、どのような方法で調べたのか、また、実際の形や大きさはどうなのか、関心を持って意欲的に学習しようとする。	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	5月	10	プレートの運動	①変成岩が形成される過程を理解し、主な変成岩の特徴を判断できる。 ②プレートの分布やプレート境界について理解するとともに、プレートの運動によって大地形が形成されることを理解している。 ③プレートの分布や移動から、プレート境界に見られる地形の特徴を見いだすことができ、大地形の形成とプレートの運動の関係について考察できる。			
	6・7月	10	地震と火山	①火山活動や地震について基本的な知識を身につけるとともに、それらの現象がプレート運動と深く関連していることを理解している。 ②火山活動や地震発生時の仕組みについて関心を持ち、その分布や原因・災害などについて意欲的に学習しようとする。			
			大気の大気構造と運動	①大気の大気構造について理解するとともに、各層の特徴や観測される現象について説明することができる。 ②資料をもとに、高度と気圧の関係や高度と気温の関係を示すグラフを作成し、鉛直方向の気圧や気温の変化の特徴を見いだすとともに、大気の大気構造が何をもとに分けられているのか考察することができる。			
2 学期	9月	10	海洋の構造と海水の運動	①大気大気循環だけでなく、海流や海洋の大気循環によっても地球規模で熱が輸送されていることを理解している。 ②海水温の鉛直分布の図から、海洋の表層と深層で水温が違うことについて考察することができる。	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	10月	10	日本の四季の気象と気候	①日本の四季の特徴を理解するとともに、季節変化をもたらす気団についても理解している。 ②各季節の典型的な天気図や衛星画像からそれぞれの季節の特徴を適切に読み取ることができる。 ③日本の四季の気象について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。			

(裏に続く)

期	日	時	学習項目・	学習内容	評価方法
---	---	---	-------	------	------

期	月	数	単元	(言語材料・単元の目標)	a	b	c
2 学期	1 1月	16	宇宙の誕生	①宇宙が約138億年前に誕生し、ビッグバン以降に水素原子やヘリウム原子が誕生して宇宙の晴れ上がるまでの過程を理解している。 ②天体の大きさや距離について、光が進む時間で表現することができる。 ③宇宙がどのようにして誕生したのかということについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。	定期テスト授業中の発問	演習問題定期テスト	授業プリント内の振り返り定期テスト
			太陽の誕生	①原始太陽系円盤から太陽系が誕生したことについて理解している。 ②太陽がどのようにして誕生したのか、何をエネルギーとして輝いているのかについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする。			
3 学期	1 月	8	惑星の誕生と地球の成長	①地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解している。 ②太陽系の惑星の特徴を理解し、地球型惑星と巨大ガス惑星、巨大氷惑星の違いについて、その形成過程の違いから説明することができる。 ③地球が誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程について関心を持ち、太陽系における地球について科学的な見方・考え方を身に付けようとする。	定期テスト授業中の発問	演習問題定期テスト	授業プリント内の振り返り定期テスト
	1・2 月	10	化石と地質時代の区分	①地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解している。 ②離れた地域に分布する地層を比較して、同じ時代の地層であることを判定する技能を身に付けている。 ③各地質時代の示準化石について理解し、例を挙げることができる。 ④各地質時代における特徴的な出来事や、環境の変化とそれに伴う生物の移り変わりについて理解している。			
			古生物の変遷と地球環境				
	3 月	2	日本の自然環境地球環境の科学	①日本列島における自然環境の特徴について理解し、自然環境の恩恵と自然災害のリスクについてを理解している。 ②地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。	定期テスト授業中の発問	まとめプリント設問	まとめプリント内容

担当者からのメッセージ(学習方法など)  
 地学基礎でも単元ごとに中学校の復習内容も入れることがあります。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	体育		学年	単位数
体育	科目名	■必修 □選択	2年	1単位
使用教科書	現代高等保健体育		使用教室	
	50 大修館	701	体育館など	
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図ることができるようになる。			
評価	評価法	自己の体調を考えながら、積極的に授業に参加している様子などを観察し、技能テスト・理解度テスト、学習ノートや振り返りシートを加味して評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して攻勢に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	3	体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行う。また、体の柔らかさや力強い動き、動きを持続する運動などを考え、仲間とともに運動できる。	技能テスト・理解度テスト・観察	学習ノート観察	観察・振り返りシート
	5		陸上競技	短距離走や長距離走の記録の向上をめざし、仲間とともに協力して、自己の課題を発見し、解決のために工夫して練習できる。			
	6	6	選択授業1(3種目中1種目選択)	ネット型球技を選択し、1年次に身に付けた技能をさらに向上させるとともに、空いたコートに打ち返すことができるようになる。練習やゲームを通して、仲間と協力しながら安全に学習できる。(バドミントン・卓球・バレーボール)			
	7						

(裏に続く)

	時	学習項目・	学習内容	評価方法
--	---	-------	------	------

期	月	回数	単元	学習目標 (言語材料・単元の目標)	a	b	c
2 学期	9	2	体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行う。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観察・ 振り返り シート
	10	4	選択授業1 (3種目中1 種目選択)	ネット型球技を選択し、1年次に身に付けた技能をさらに向上させるとともに、空いたコートに打ち返すことができるようになる。練習やゲームを通して、仲間と協力しながら安全に学習できる。(バドミントン・卓球・バレーボール)			
	11	6	選択授業2 (2種目中1 種目選択)	ゴール型球技を選択し、1年次に身に付けた技能をさらに向上させるとともに、味方の動きに合わせてパスが出せるようになる。練習やゲームを通して、仲間と協力しながら安全に学習できる。(バスケットボール・フットサル)			
3 学期	1	4	体育理論	運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる傷害、スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツ技能の上達課程、運動やスポーツ活動時の健康安全の確保について理解する。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観察・ 振り返り シート
	2	4	選択授業2 (2種目中1 種目選択)	ゴール型球技を選択し、1年次に身に付けた技能をさらに向上させるとともに、味方の動きに合わせてパスが出せるようになる。練習やゲームを通して、仲間と協力しながら安全に学習できる。(バスケットボール・フットサル)			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

安全に注意して、みんなで協力し合いながら、学習しましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	保健		学年	単位数
保健	科目名	■必修 □選択	2年	1単位
使用教科書	現代高等保健体育		使用教室	
	50 大修館	701	HR教室	
学習の目標	現代社会と健康について理解を深めて、課題を発見し、解決方法を思考判断し、それを他者に伝える力を養う。安全な社会生活について理解し、応急手当てができるようになるともに、安全に関する原則や概念に着目して、危険の予測や回避ができるようになる。			
評価	評価法	提出物(プリント・ノート)(毎時間)・レポート課題及び定期考査、授業中の積極的な取り組みをもって評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯を通じる健康や健康を支える環境作りについて理解し、思春期から中高年期に出会う健康課題に対処しうる知識と技能を身に付け、社会全体の健康を高めるための環境作りに参加できる
		b	思考・判断・表現	健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考判断し、自分の言葉で他者に伝えることができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	自他及び社会における健康や安全な生活を営むための知識や技能を身に付けようと、粘り強く、主体的に学習に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	3	ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。	期 末 考 査	提 出 物 プ リ ン ト ・ レ ポ ー ト	授 業 の 取 組 ・ ノ ー ト ・ 振 り 返 り シ ー ト
			思春期と健康	・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。			
	5 月	4	性意識と性行動の選択	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。			
			妊娠・出産と健康	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。			
	6 月	4	避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。			
			結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。			
	7 月	1	中高年と健康	・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9 月	4	働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	期末 考査	提出 物プリ ント・ レポー ト	授業 の取 組・ ノート・ 振り返 りシ ート
			労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。			
	10 月	5	健康的な職業生活	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的に行うことの意義について説明できる。			
			大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。			
	11 月	5	水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。			
	環境と健康にかかわる対策		・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。				
12 月	5	ごみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状とその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。				
3 学期	1 月	3	食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	期末 考査	提出 物プリ ント・ レポー ト レポー ト 課題	授業 の取 組 ノート 振り返 りシ ート
			食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。			
	2 月	3	医療サービスとその活用	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。			
			医療品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。			
	3 月	2	健康に関する環境づくりと社会参加	・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

保健は日常生活に役立つ情報ばかりです。知っていそうで知らないこともたくさんあると思います。授業では積極的な態度で学んでください。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	英語コミュニケーション I		学年	単位数
外国語	科目名 ■必修 □選択		2年	1単位
使用教科書	COMET English Communication I		使用教室	
	104 数研	717	HR教室	
学習の目標	<p>1. 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>2. 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>3. 日常的な話題について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>4. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>5. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>			
評価	評価法	定期考査、授業プリント、授業態度、発表内容により評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習している話題について理解したり伝えたりする技能を身につけている。
		b	思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて学習している話題について、必要な内容を読みとったり聞きとったりして、その要点を捉え、書いたり話したりすることで伝えあっている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に学習活動に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	3	Lesson6	・材料: コンビニエンスストア成功の鍵 ・文法: that節 ・目標: 自分の好きな店やよく行く店を英語で紹介する。	提出 プリント	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	5 月	4	Lesson6	・材料: コンビニエンスストア成功の鍵 ・文法: that節 ・目標: 自分の好きな店やよく行く店を英語で紹介する。	中間 考査	中間考 査	提出 プリン ト

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	6 月	4	Lesson7	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: 高校の水族館</li> <li>文法: 現在完了形</li> <li>目標: 自分たちの学校を英語で紹介する。</li> </ul>	提出 プリント	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	7 月	1	Lesson7	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: 高校の水族館</li> <li>文法: 現在完了形</li> <li>目標: 自分たちの学校を英語で紹介する。</li> </ul>	期末 考査	期末考 査	提出 プリン ト
2 学期	9 月	4	Lesson8	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: スマート農業</li> <li>文法: 受け身</li> <li>目標: 生活を快適にするテクノロジーについて英語で述べる。</li> </ul>	提出 プリン ト	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	10 月	4	Lesson8	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: スマート農業</li> <li>文法: 受け身</li> <li>目標: 生活を快適にするテクノロジーについて英語で述べる。</li> </ul>	中間 考査	中間考 査	提出 プリン ト
	11 月	4	Lesson9	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: 食品廃棄</li> <li>文法: 比較</li> <li>目標: 食品廃棄を減らす取り組みについて英語で述べる。</li> </ul>	提出 プリン ト	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	12 月	2	Lesson9	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: 食品廃棄</li> <li>文法: 比較</li> <li>目標: 食品廃棄を減らす取り組みについて英語で述べる。</li> </ul>	期末 考査	期末考 査	提出 プリン ト
3 学期	1 月	3	Lesson10	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: ウィリアムの風車</li> <li>文法: 関係代名詞</li> <li>目標: 地域のために自分なら何ができるかを英語で述べる。</li> </ul>	提出 プリン ト	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	2 月	3	Lesson10	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: ウィリアムの風車</li> <li>文法: 関係代名詞</li> <li>目標: 地域のために自分なら何ができるかを英語で述べる。</li> </ul>	学年 末考 査	学年末 考査	提出 プリン ト
	3 月	2	Reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料: Bailey 日本初のファシリティドッグ</li> </ul>			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

1年の続きになります。授業で毎回配るプリントを完成して提出してください。考査はすべて学習したことから出題します。授業には積極的に参加してください。積極的でない行為は禁止です。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	科目名		家庭基礎	学年	単位数
家庭			■必修 □選択	2年	2単位
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造			使用教室	
	2 東書		701	HR教室	
学習の目標	生活の営みに係る実践的・体験的な学習活動を通して、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。				
評価	評価法	定期考査、提出プリントの内容(毎時)、授業に取り組む姿勢、作品制作の過程と出来栄で評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	家庭や地域の生活の中から課題を見だし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	4	第1章 生涯を見通す	・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	ワークシート(毎時)	ワークシートにおける考察部分の表現	取組みの様子(毎時)  発表(随時)
	5月	6	第2章 人生を作る	・自分のライフスタイルを考えるために、様々な生き方について理解する。 ・社会制度としての家族と法律を理解する。よりよい生活を創造するために、どのような社会を実現すればよいかを考える。			
		5	第4章 超高齢社会を共に生きる	・超高齢社会の背景を理解する。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	中間考査		
	6月	10	第7章 衣生活をつくる	・用途に合った着装を身につけるため、被服の社会的・文化的な背景を理解する。 ・健康・安全・快適な衣生活を送るために被服の多様な機能や工夫、選択と管理を科学的に理解する。 ・資源消費やユニバーサルデザインの視点で被服を見直す。	作品制作	作品制作	
	7月	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動について理解し、生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。	期末考査	ホームプロジェクト	ホームプロジェクト

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9 月	10	第3章 子どもと共に育つ	・子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子供が健康・快適・安全に育つ環境を整えられるように、生活習慣や衣食住について理解する。 ・現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	ワークシート(毎時)	ワークシートにおける考察部分の表現 作品制作	取組みの様子(毎時) 発表(随時)
	10 月	12	第6章 食生活をつくる				
	11 月			・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、制度的な支援体制を理解し、個人の役割を考える。	期末審査	レポート	
	12 月	2	第5章 共に生き、共に支える				
3 学期	1 月	6	第8章 住生活をつくる	・住居の機能やライフステージごとの住欲求を理解する。 ・防災・日照・換気等の環境性能について理解を深め、快適・安全・健康な住居の条件を理解する。 ・日本や世界の住文化について理解し、環境に配慮した住生活について考える。	作品制作	作品制作	
	2 月	7	第9章 経済生活を営む				
	3 月	3	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを考える。	学年末審査		

担当者からのメッセージ(学習方法など)

自立した生活者として学習内容を自分のこととしてとらえて学びましょう。学習内容を自分の生活や人生の中でどのように考え、どのように行動するかが大切です。豊かな人生のためにしっかり考えてください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	科目名		学年	単位数
工業	実習 ■必修 □選択		2年	3単位
使用教科書	実習 自主編成プリント		使用教室 機械科 実習棟	
学習の目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。			
評価	評価法	各パートで学ぶ知識・技術の習得、作品の出来栄え及び各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を評価する。また、課題作品・レポート等の提出物についても評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技術	機械に関する基礎的な知識・技術を身につけ、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理できる技能を身に付ける。
		b	思考・判断・表現	機械技術に関する諸問題の適切な解決を目指し、自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫をする能力を身に付ける。
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械に関する基礎的な技術に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに社会の発展を図る創造的実践的な態度を身に付ける。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1	4	各班 3時間 × 3回	オリエンテーション	概要説明、安全作業、心構え、ローテーション(2班編成を輪番)等について	実技 レポート	作業 レポート	作業 観察
	5		ガス溶接	酸素、アセチレンの特性と器具の取扱いについて			
	6		旋盤	安全作業について 旋盤の構造と機能について バイトの取り付け(片刃バイト・剣バイト)			
	7		電気・製図	電気実習 電気工事基礎			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2	9	各班 3時間 × 3回	ガス溶接	ガス溶接の基本操作 ガス切断の基本操作	実技 レポート	実技 レポート	作業 観察
	10		旋盤	安全作業について 旋盤作業の基本操作(端面削り・外丸削り) 段付け加工			
	11		電気・製図	マルチメータの使い方 抵抗の読み方とオームの法則 LEDを用いた電子回路			
	12	ガス溶接	課題作品「容器」の製作	実技	作業	作業 観察	
3	1	各班 3時間 × 3回	旋盤	課題作品「文鎮のつまみ」の製作	実技 レポート		作業 レポート
	2		電気・製図	製図実習 製図の基礎 作図の基礎			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

各班(2班または3班)に分かれて、1パート3時間×3回として3パートを年間3回ローテーションして学習する。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	機械工作		学年	単位数
工業	科目名	■必修 □選択	2年	2単位
使用教科書	機械工作1、2		使用教室	
	7 実教	708,709	HR教室	
学習の目標	ものづくりにおける機械に関する興味・関心を深めるため、身近な製品のつくり方を通して、基礎的な知識と技術を習得し、進展する科学技術に柔軟に対応できる能力と態度を育てます。			
評価	評価法	定期考査、提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・基礎的知識と技術を理解し、現代の工業の発展と役割を理解している。ものづくりでの場面で問題解決を試みようとする態度を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	・諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、その成果を表現することができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・身近な製品の工作に関する知識と技術の習得に向けて、意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法			
					a	b	c	
1 学期	4		第2章1節、2節 材料の機械的性質・金属材料の加工性	材料の性質や特徴を理解し、使用目的に応じた材料を選ぶ基本的な事柄(強さ・硬さ・粘り強さ・疲れ強さなど)について学ぶ。	ノ ー ト 提 出	発 展 課 題	考 査 プ リ ン ト 提 出	取 り 組 み 姿 勢
	5							
	6							
	7	第2章3節 鉄鋼材料	工業の各分野で広く使われている鉄鋼材料の製法および温度や炭素量の違いによる性質について学ぶ。					
2 学期	9		第2章4節 非鉄金属材料	アルミニウムをはじめとする非鉄金属材料の性質や用途について学ぶ。	ノ ー ト 提 出	発 展 課 題	考 査 プ リ ン ト 提 出	取 り 組 み 姿 勢
	10							
	11							
	12							
		第2章5節 非金属材料	プラスチックやセラミックなどの性質や用途について学び、発展学習として、形状記憶合金や超電導材料などの機能性材料などについても学ぶ。					
		第3章1節 鋳造法と鋳型	自動車などの機械部品や家庭用品・装飾品などに広く利用されている鋳造品について、その製法や鋳型について学ぶ。					
		第4章1節 溶接と接合	電子回路から航空機に至るまで、多くの製品の生産に用いられる溶接法の基本と適切な接合法について学ぶ。					

(裏に続く)



指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	工業情報数理		学年	単位数
工業	科目名	■必修 □選択	2年	2単位
使用教科書	精選工業情報数理		使用教室	
	7 実教	719	HR教室	
学習の目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解すること。 情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得すること。 実際にコンピュータを使用し、情報を活用する能力と態度を育てること。 情報の適切な取り扱いを行い自分で思考・判断できる。			
評価	評価法	定期考査、提出物、学習の取り組み状況などの総合評価をおこなう。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4		第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 3節 アプリケーションソフトウェア	・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作について理解させる。 ・どのようなアプリケーションソフトウェアがあるか理解させ、実際に使えるようにする。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	5		第5章 ネットワーク 1節 コンピュータネットワーク 2節 ネットワークの通信技術	・コンピュータネットワークを利用した情報交換の利点について理解させる。 ・身近なコンピュータネットワークについて理解させる。 ・ネットワーク機器とネットワークの形態について理解させる。 ・コンピュータネットワークに必要な通信技術や技術的な約束事について理解させる。 ・コンピュータネットワークを停止させずに安全に利用する方法について理解させる。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	6		第3章 プログラミング 1節 プログラム言語 2節 プログラムの作り方 3節 アルゴリズムと流れ図 4節 プログラミングの基礎	・プログラム言語の種類について理解させる。 ・問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解させる。 ・順次・選択・繰返しの中の三つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解させる。 ・BASICの特徴、簡単なプログラム作成について理解させる。	ノート 発表 プログラム作成 考査	ノート 発表 プログラム作成 考査	ノート プログラムの応用 発表
	7						

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9	10	第3章 プログラミング 3節 アルゴリズムと 流れ図 5節 順次処理 6節 選択処理 7節 繰り返し処理 8節 プログラミングの 応用	・簡単なプログラム作成について理解させる。 ・データの出力, データの入力, 関数の計算について理解させる。 ・選択処理について理解させる。 ・繰り返し処理とその書式について理解させる。 ・プログラム中にデータを設定する方法を理解させる。 ・関数定義, 外部定義関数, サブルーチン, ファイル, グラフィックスの考え方について理解させる。	ノート 発表 プログラム 作成 考査	ノート 発表 プログラム 作成 考査	ノート プログラ ムの 応用 発表
	10						
	11	16	8節 プログラミングの 応用	・プログラムの作成 ・プログラムにデータを設定する方法を理解させる。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	12						
3 学期	1	18	第6章 コンピュータ による制御  1節 いろいろな制御 2節 組込み技術	・制御の概要を踏まえたうえで, コンピュータ制御の考え方について理解させる。 ・コンピュータ制御の具体的な方法について理解させる。 ・身のまわりの組込み技術と, その概要を知り, 特徴を理解させる。	ノート 発表 考査	ノート 発表 考査	ノート 発表
	2						
	3						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

パソコンのソフトウェアの使用方法やプログラムの基礎など機器を利用して理解を高めていきます。これからの技術ですので意欲をもって取り組んでください。